理学療法士・作業療法士

国家試験問題　解答と解説

2016年版　CD-ROM

（Windows 8.1/8/7/Vista）

取扱説明書

医歯薬出版株式会社　編

◇本 CD-ROM のご使用にあたって

1）本書ご購入者で，本 CD-ROM をご利用になる方のコンピュータへのインストールを除いて，本 CD-ROM の内容（プログラム，データなど）の複製を禁止します.
2）医歯薬出版株式会社および本 CD-ROM の開発関係者は，本 CD-ROM を運用した結果について，一切の責任を負いません.
3）本 CD-ROM に関するお問い合わせは，弊社ホームページ http：//www.ishiyaku.co.jp/ebooks/にてお受けいたします．ホームページにアクセス出来ない方につきましては，FAX（03-5395-7606）にてお問い合わせください.

◇動作環境

・OS：日本語版 Windows 8.1/8/7/Vista
・ディスプレイ：1024×768 ドット以上
・メモリ：16 MB 以上
・ハードディスクの空き：25 MB 以上
・CD-ROM ドライブ

＜ご注意＞

ディスプレイのサイズは必ず 1024×768 以上の設定にしてください.
※各画面は過去の版をもとにしています．年号を適宜読みかえてください.
※利用環境によっては setup. exe が setup，また ken. exe が ken などと拡張子（. exe）なしで表示されます．また各画面の表示が多少異なる場合があります．適宜読みかえてください.
※履歴には 10 問以上回答すると成績などが記録されます.

1．インストール

＜ご注意＞

1）管理者権限でインストールしてください.
2）旧バージョンが既にインストールされている場合は，アンインストールを行なってから，インストールしてください．環境によっては不具合が起きる場合があります．アンインストールは Windows のコントロールパネルで行なってください.

＜インストール＞

1）Windows を起動します.
2）CD-ROM ドライブ内の setup.exe をダブルクリックします.「ファイルをチェックしています...」と画面に表示されますので，図 1 の画面が表示されるまでお待ち下さい.
＊本 CD-ROM の setup.exe に関する警告画面が出てきた場合は，［実行］，［許可］，［聞く］などを選択し，**図 1** の画面まで進めて下さい.
3）［次へ（N)］ボタンを押しインストールを続行します.
4）「インストールの完了」のメッセージが表示されたら，［完了］ボタンを押して下さい．インストールは完了です.

2．起動と終了

＜起　動＞

デスクトップに作製された［理学療法士・作業療法士 国試＊＊＊＊］（＊＊＊＊は年号）のアイコンをダブルクリックすると起動し，スタート画面（**図 2**）が表示されます.

あるいは，［マイコンピュータ］か［エクスプローラ］で［Program Files（x86)］内の［ishiyaku］フォルダを開き，［Ptot＊＊＊＊］フォルダ内の［ken.exe］をダブルクリックすると起動し，スタート画面が表示されます．［ken.exe］は『理学療法士・作業療法士 国家試験問題プログラム』の実行ファイルです.

＜終　了＞

スタート画面右下の［終了］ボタン（**図 2**-⑧）をクリックしてください.

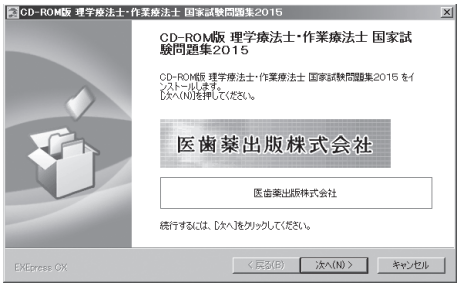

図 1

図 2

3．使い方

『理学療法士・作業療法士 国試プログラム』は，1 回の試験（ゲーム）で問題をランダムに 10 問出題し（オプションで年度別出題を選択した場合は本試験の出題順に 100 問出題），それに答えていただくという形式をとっています. キーボードは使用せずにマウスのみで操作していきます.

(1)スタート画面（図 2）

①［問題スタート］ボタン：出題画面に移動します.
②［時系列成績グラフ］ボタン：時系列の成績グラフを表示します.
③［ジャンル別成績グラフ］ボタン：ジャンル別の成績グラフを表示します.
④［オプション］ボタン：各種の設定を行うオプション画面に移動します.
⑤［選択問題の残り問題数］ボタン：ジャンル別を選択したときの残り問題数を表示します.
⑥［バージョン情報］ボタン：『理学療法士・作業療法士 国試プログラム』のバージョンを表示します.
⑦［ヘルプ］ボタン：『理学療法士・作業療法士 国試プログラム』のヘルプを表示します.
⑧［終了］ボタン：『理学療法士・作業療法士 国試プログラム』を終了します.

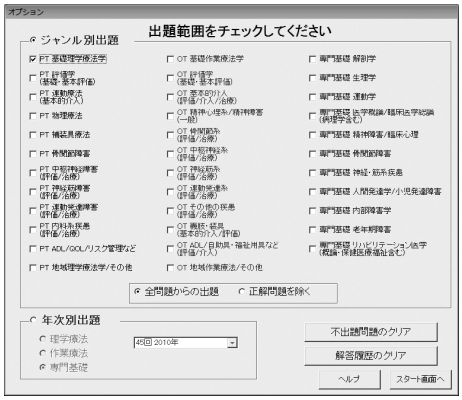

図 3

図 4

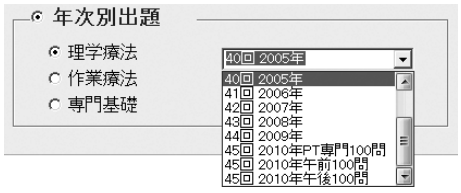

図 5

図 6

⑵オプション画面（図 3）

スタート画面の［オプション］ボタン（**図 2**-④）をクリックすると，オプション画面が表示されます．

問題をスタートする前に，ここでジャンル別出題か年次別出題のいずれかを選択します．同時にその他の設定も行います．

先頭の□や○の欄をクリックしてチェックマークを入れます．もう一度クリックするとチェックマークが外れます．

●ジャンル別出題（図 4）

図 4 はジャンル別出題を選択した場面です．表示されている領域の中から出題するジャンルを選択します．出題するジャンルをクリックしてチェックを入れます．もう一度クリックするとチェックが外れます．ジャンルはいくつ選択してもかまいません．

この出題方式では，1 回の試験（ゲーム）で選択したジャンルから問題をランダムに 10 問ずつ出題し，10 問終了するごとに判定メッセージが現れます．

また，スタート画面の［選択問題の残り問題数］（**図 2**-⑤）に残り問題数が表示されます．

●年次別出題（図 5）

図 5 は年次別出題の選択画面です．プルダウンメニューから年次を選択します．

この出題方式では，該当する年次の問題が本試験と同じ順番で連続出題されます．

※45 回以降の PT 専門 100 問，OT 専門 100 問，専門基礎を選択した場合は，その年次の該当問題のみを抽出して連続出題されます．

表示される問題番号は本試験時の出題番号です．

図 7

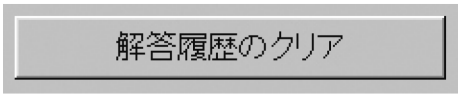

図 8

途中で終了した場合でも成績グラフに結果が反映されますが，次回起動時は第 1 問からのスタートとなります．

●正解問題を除く（図 6）

ジャンル別出題を選択したときは，右側の部分から「全問題からの出題」か「正解問題を除く」のどちらかが選択できます．

「全問題からの出題」を選択すると，チェックしたジャンルの全問題から 10 問ずつが出題されます．

「正解問題を除く」を選択すると，一度正解を出した問題を除いて出題されます．スタート画面の［選択問題の残り問題数］は順次減っていきます．残り問題数が 10 問以下になった場合はその残り問題数だけが出題され，0 問になると出題は終了します．その際は，ジャンルの選択を変更するか，次項の［不出題問題のクリア］を実行します．

出荷時の設定は「全問題からの出題」です．

●不出題問題のクリア（図 7）

「不出題問題のクリア」ボタンをクリックすると，その時点で「正解問題を除く」に登録されていた問題番号をすべて解除します．特定のジャンルだけを解除することはできません．

●解答履歴のクリア（図 8）

「解答履歴のクリア」ボタンをクリックすると，その時点でいままで解答した結果をすべて解除し，最初に本プログラムを起動したときの状態になります．時系列成績グラフ，ジャンル別成績グラフなどもクリアされます．

⑶出題画面（図 9）

●出題

問題文のエリア（**図 9**-①）にランダムに 10 問連続して出題されます（年次別を選択した場合は本試験の出題順）．

●解答

解答は ［1］〜［5］ と「解なし」のボタン（**図 9**-②）をクリックして入力します．ボタンをクリックすると数字が【 】でマークされます．解答を訂正するときは，そのボタンを再度クリックします（【 】マークが消えます）．同時に複数のボタンを選択することもできます．

＜ご注意＞

複数のボタンを選択できますが，問題によって選択する数は異なります．設問の指示に従ってください．選択肢を 2 つ選ぶ問題の場合は，設問に従って 2 つの答番号を選択します．正解が 1 つであるにもかかわらず複数想定される場合はいずれか 1 つを選択します．

正解がないと想定されるときは「解なし」ボタンを選択してください．

※2005 年（40 回）までは正解は公表されていません．模範解答としてあげてあります．本来は「解なし」という選択肢はありませんが，問題によっては正解として適当なものがないために，学習者の便を図るためにボタンを追加してあります．

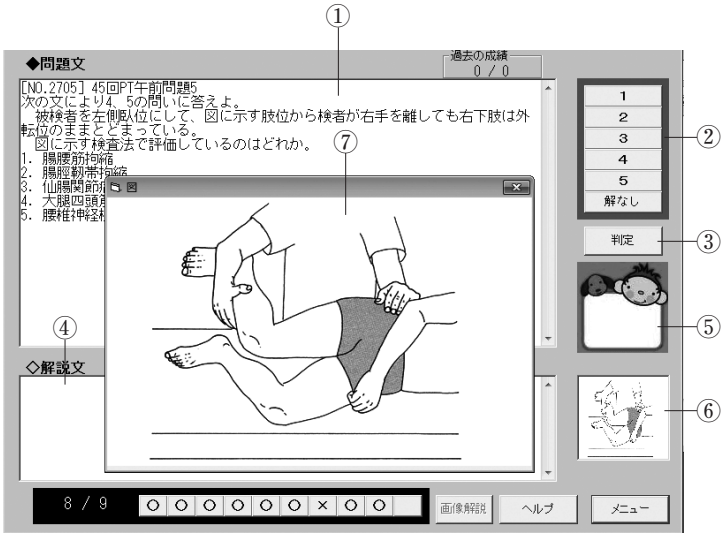

図 9

図 10

●判定

［判定］ボタン（**図 9**-③）をクリックすると，正解か不正解かの判定が⑤のエリアに○か×で表示されます．正解がない場合は，「解なし」のボタンを選択します．正解が本来１つであるにもかかわらず２つある場合は，どちらのボタンを押しても「○」が表示されます．設問上，解答が２つある場合は，２つとも正しいボタンを押さない限り「○」が表示されません．

図 11

●正解・解説

判定と同時に，解説文のエリア（**図 9**-④）に正解と解説文が表示されます．解説が長文の場合はスクロールしてご覧ください．

●図版の拡大表示

図版が含まれる問題は，右下のエリア（**図 9**-⑥）に小さな図版が表示されます．この図版をクリックすると拡大図版が別ウィンドウで表示されます（**図 9**-⑦）．閉じるときはこのウィンドウをクリックします．

●解説文の図版表示

解説文に図版が含まれているときには，**図 11**-⑥のボタンが ON の状態になります．このときにボタンをクリックすると，解説文の図版が別のウィンドウに表示されます．図版のウィンドウを終了するときは，このウィンドウをクリックします．

●履歴

「過去の成績」（**図 10**-①）には表示されている問題の過去の成績が現れます（正解数／出題数）．**図 10**-②には 10 問単位で出題ごとの判定が表示され，正解数／出題数も表示されます．

●次問へ

［判定］ボタン（**図 9**-③）をクリックしたあと，このボタンの表示は［次問へ］（**図 10**-③）に変わります．

［次問へ］ボタンをクリックすると，次の問題が表示されます．

● 10 問終了

「ジャンル別出題」では，10 問終了すると，判定メッセージが表示されます．判定メッセージ画面を閉じると［次問へ］ボタンの表示が［戻る］（**図 11**-①）に変わります．

［戻る］ボタンをクリックすると，スタート画面に戻ります．

「年次別出題」では 10 問終了すると［次問へ］ボタンは［次へ］に変わり，100 問終了後に［戻る］ボタンに変わります．

図 12

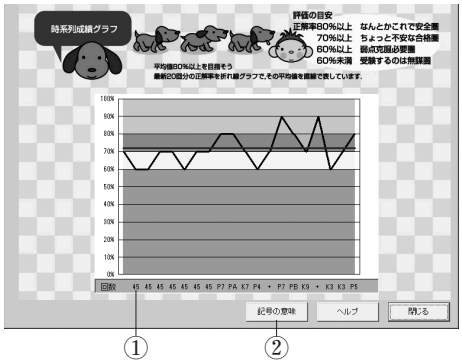

図 13

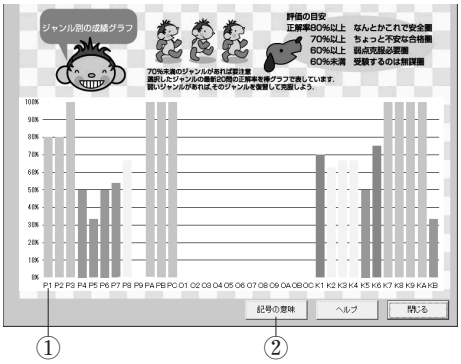

図 14

●判定メッセージ（図 12）

「ジャンル別出題」では，10 問終了時に，成績に応じて判定メッセージが現れます．

「年次別出題」では判定メッセージは出ません．

● 10 問の見直し

10 問終了時には，結果を見直すことができます．

過去の判定マーク（**図 11**-②）の○や×のいずれかをクリックすると，その問題（**図 11**-③）と，あなたがクリックした解答（**図 11**-④），および正解・解説（**図 11**-⑤）が表示されます．不正解問題の見直しなどにご利用ください．

●解説文の図版

解説文に画像がある場合は，［解説画像］ボタンが ON の状態になります（**図 11**-⑥）．このときにこのボタンをクリックすると別ウィンドウで画像が表示されます．

●［ヘルプ］ボタン（図 11-⑦）

ヘルプを表示します．

●［メニュー］ボタン（図 11-⑧）

出題の途中で終了するときに，このボタンを押すとスタート画面に戻ります．

⑷成績グラフ画面

●時系列成績グラフ（図 13）

最新 20 回分の得点が黒色の折れ線グラフで，その平均値が青色の直線で表示されます．

また，選択したジャンルと年次がグラフ下に記号（**図 13**-①）で表示されます．

背景の色は，正解率によって変えています．

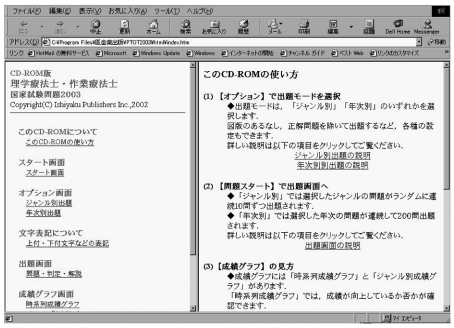

図 15

淡青色：100％～80％　なんとかこれで安全圏
緑　色：80％～70％　ちょっと不安な合格圏
黄　色：70％～60％　弱点克服必要圏
あずき色：60％未満　受験するのは無謀圏

●ジャンル別成績グラフ（図 14）

グラフの下に記号で表示しているジャンル（**図 14**-①）の正解率を，棒グラフにしたものです．そのジャンルの最新 20 問（20 問以下のときは出題数）の正解率を表示します．棒グラフの色は時系列得点グラフと同じ意味です．

このグラフをみると，弱点が一目でわかります．

●［記号の意味］ボタン（**図 13, 14**-②）

成績グラフに表示されるジャンルと年次の記号の意味を別ウィンドウで表示します．

●［ヘルプ］ボタン

各成績グラフ画面に関するヘルプを表示します．

●［閉じる］ボタン

スタート画面に戻ります．

(5)ヘルプ画面（図 15）

スタート画面の［ヘルプ］ボタンまたは各画面の［ヘルプ］ボタンを押すと，**図 15** のヘルプ画面が表示されます．見たい項目をクリックしてご覧ください．

[出題ジャンルの詳細]

※ガイドラインをベースにしつつ，本 CD-ROM 独自に問題のジャンル分類を行っています．各ジャンルの詳細は以下の表を参照してください．このジャンル分類は新しい平成 28 年ガイドラインに対応していますが，旧ガイドラインの問題も同じ基準で分類されています．

PT 専門分野

1．基礎理学療法学	ICF，ノーマライゼーション，クリニカルパス，インフォームドコンセント，理学療法の基礎（PT/OT 法，運動学習，バイオメカニクス，基本動作，正常歩行，研究，医療統計など），など
2．評価学（基礎・基本評価）	基本評価（全身状態，徒手筋力検査，関節可動域測定，運動検査，感覚検査，運動負荷試験など），臨床評価指標，など
3．運動療法（基本的介入）	運動療法の理論，全身調整運動，関節可動域運動，筋力増強運動，筋持久力，バランス練習，各種体操，など
4．物理療法	温熱・寒冷療法，電気刺激療法，電磁波療法，超音波療法，水治療法，牽引療法，など
5．補装具療法	義足，装具（下肢，体幹，上肢），車椅子，歩行補助具，適合技術，など
6．骨関節障害（評価/治療）	変形性関節症，骨折，関節リウマチ，スポーツ外傷，脊椎疾患，腰痛症，切断，外傷，など
7．中枢神経障害（評価/治療）	脳血管障害，脊髄損傷，Parkinson 病，脊髄小脳変性症，外傷性脳損傷，水頭症，など
8．神経筋障害（評価/治療）	筋ジストロフィー，筋萎縮性側索硬化症，多発性硬化症，多発性筋炎，ニューロパチー，末梢神経損傷，ポリオ後症候群，など
9．運動発達障害（評価/治療）	姿勢反射，発達検査，脳性麻痺，二分脊椎，Down 症候群，骨系統疾患，など
10．内科系疾患（評価/治療）	呼吸器（COPD，吸引など），循環器（心不全，心電図，閉塞性動脈硬化症など），代謝（糖尿病，慢性腎不全など），感覚器，悪性腫瘍，熱傷，褥瘡，認知症，など
11．ADL/QOL/リスク管理など	ADL，IADL，ADL 検査（FIM，Barthel Index など），QOL，リスク管理，など
12．地域理学療法学/その他	地域リハ，予防，地域包括ケアシステム，介護保険制度，訪問理学療法，通所理学療法，家族への指導，環境整備，福祉用具，対人関係技術，など

OT 専門分野

1．基礎作業療法学	ICF，ノーマライゼーション，クリニカルパス，インフォームドコンセント，理学療法の基礎（PT/OT 法，運動学習，バイオメカニクス，作業の分類・種類・分析，研究，医療統計など），など
2．評価学（基礎・基本評価）	全身状態，運動機能評価（徒手筋力検査，関節可動域測定，身体計測，巧緻性検査，上肢機能検査など），感覚検査，姿勢反射，発達検査，個人因子，環境因子，など
3．基本的介入（一般）	治療学基礎（目的，領域など），過程（治療計画，治療介入，効果判定など），基本的介入（運動機能，感覚機能，自助具，基本動作，職業関連など），治療的態度，対人技能，など
4．精神心理系/精神障害（評価/介入/治療）	精神機能評価，精神心理系評価，精神障害に対する介入・治療（統合失調症，うつ病，人格障害，器質性精神障害，薬物依存症，神経症性障害，広汎性発達障害，AD/HD，認知症，てんかんなど），など
5．骨関節系（評価/治療）	変形性関節症，骨折，関節リウマチ，外傷，切断，など
6．中枢神経系（評価/治療）	脳血管障害，脊髄損傷，Parkinson 病，脊髄小脳変性症，外傷性脳損傷，多発性硬化症，高次脳機能障害（失語，失行，記憶障害など），など
7．神経筋系（評価/治療）	筋ジストロフィー，筋萎縮性側索硬化症，多発性筋炎，重症筋無力症，ニューロパチー，末梢神経損傷，など
8．運動発達系（評価/治療）	脳性麻痺，二分脊椎，運動発達遅滞，重症心身障害，Down 症候群，など
9．その他の疾患（評価/治療）	呼吸器（COPD，吸引など），循環器（心不全，心電図など），代謝（糖尿病など），廃用症候群，悪性腫瘍，熱傷，など
10．義肢・装具（基本的介入/評価）	義手，上肢装具，など
11．ADL/自助具・福祉用具など（評価/介入）	ADL，IADL，ADL 検査（FIM，Barthel Index など），福祉用具，QOL，など
12．地域作業療法/その他	介護保険制度，関連法規（障害者総合支援法，介護保険制度，医療観察法など），地域包括ケアシステム，予防，地域作業療法，生活支援，特別支援教育，就労支援，環境整備，対人関係技術，感染対策，など

専門基礎分野

1．解剖学	骨，筋，神経，脈管，内臓，体表解剖，細胞，など
2．生理学	筋，神経，感覚，呼吸，循環，血液・免疫，嚥下，消化，排尿，内分泌，代謝，体温，など
3．運動学	力学，四肢と体幹の運動，動作解析，姿勢，歩行，運動学習，など
4．医学概論/臨床医学総論（病理学含む）	医学概論（歴史，医の倫理，疾病の定義など），病因論，疫学，病理学的変化（感染症，アレルギー，神経難病，悪性腫瘍などを含む），ホメオスターシス，問診，生化学検査，画像検査，薬物療法，など
5．精神障害/臨床心理	心理学理論，防衛機制，転移，心理発達，心理療法，統合失調症，うつ病，人格障害，器質性精神障害，薬物依存症，神経症性障害，広汎性発達障害，AD/HD，認知症，記憶障害，てんかん，など
6．骨関節障害	変形性関節症，骨折，関節リウマチ，スポーツ外傷，脊椎疾患，慢性疼痛（腰痛，CRPS，肩手症候群，幻肢痛など），切断，骨粗鬆症，骨系統疾患，熱傷，など
7．神経・筋系疾患	脳血管障害，脊髄損傷，変性ならびに脱髄疾患（Parkinson 病，脊髄小脳変性症，筋萎縮性側索硬化症，多発性硬化症など），外傷性脳損傷，高次脳機能障害，摂食・嚥下障害，感覚障害，筋ジストロフィー，絞扼性神経障害，慢性疼痛（視床痛，帯状疱疹など），など
8．人間発達学/小児発達障害	発達評価，運動発達，脳性麻痺，NICU，など
9．内部障害学	呼吸器（COPD，誤嚥性肺炎など），循環器（心不全，心電図，末梢動脈疾患など），代謝（糖尿病，慢性腎不全など），消化器，内分泌・代謝疾患（糖尿病，サルコペニアなど），など
10．老年期障害	老年症候群，虚弱，加齢，廃用症候群，終末期ケア，など
11．リハビリテーション医学（概論・保健医療福祉含む）	QOL，ノーマライゼーション，ICF，関連法規，医療保険制度，介護保険制度，安全管理（感染対策など），EBM，保健予防概念，障害受容，チームアプローチ，クリニカルパス，など